

人生会議(アドバンス・ケア・プランニング、advance care planning: ACP)

の勧め

人生会議とは、将来の医療やケアについて患者・家族・医療・ケアチームが話し合い、患者の意思決定を支援するプロセスです。人生会議の目的は、意志表示ができなくなった場合に備えて、将来の医療に関する希望や選択を明確にすることです。人生会議を行うことで次のようなメリットがあります。

- 1) 本人の価値観や希望に沿った医療・ケアが行われる。
- 2) 緊急時や終末期ケアに関する希望や意思決定を知らせることで、周りの家族や大切な人々を安心させ、ストレスを最小限に抑えることができる。
- 3) 家族間で起こり得るもめ事を減らすことができる。

人生会議は米国で「自己決定権の尊重」という考え方や医療費の高騰を背景に制度化されました。患者が生前意思や蘇生処置拒否の意思決定をしていても関わらず、家族や代理人が意思決定を行えないなどの事例が相次ぎ、現実との間に齟齬が生まれたことが背景にあります。人生会議は健常者、慢性疾患の治療期、悪性疾患の終末期など、患者の状況や場面によって様々な進め方がありますが、あくまでも話し合いの中で進められるのがポイントです。日本人の平均寿命は1960年に男性65.32歳、女性70.19歳だったのが、2023年には男性81.09歳(+16年)、女性87.14歳(+17年)に伸びています。咀嚼・嚥下(モグモグ・ゴックン)ができなくなっても延命の選択肢がある時代です。医療の進歩

により「食べられなくなったときが寿命」ではなくなってきています。人は誰しも必ずいつか旅立ちます。旅立ちをタブーとせず自分事として捉え、日常的に語り合うのが自然な文化となるよう医療者としては願っていますし、外来でも一步前に踏み込むよう心掛けています。